

言葉の遅れが気になる、集中力や落ち着きがない、他者との関わりが苦手など
お子さんの発達に心配や不安がある場合には、次の機関に相談してみましょう。
相談内容については、すべて秘密を守ります。

電話をください。(月～金曜AM8:30～PM5:15) どこに電話をしてもOK!です。

下記のどの窓口でも受け付けます。上記内容は一例です。相談の内容に応じて、
園や学校と相談しながら支援の方法を考えていきます。

主 な 相 談 内 容	担 当 窓 口 (電 話 番 号)
○生活や学びについて	◎館林市役所(72-4111)内 ○学校教育課：内線228 ○子育て支援課・家庭児童相談室：内線665
○子どもの育ちについて	◎保健センター(74-5155)内 ○健康推進課

一人で悩まないで！

みんなで考えましょう！！



社会的自立を目指して

館林市立第九小学校

本校の特別支援学級は、知的障害特別支援学級「いなほ」教室と、自閉症・情緒障害特別支援学級「みのり」教室の2クラスがあり、計8名の児童が在籍しています。昨年度、創立150周年を迎えた本校は、たくさんの自然に囲まれ、その緑と共生するように、子どもたちもたくましく成長しています。

今年度は、特に自立活動に力を入れて取り組んでいます。様々な力を身に付けさせることで、子どもたちの社会的な自立を目指しています。主な取組としては、紙の切り方や色塗りなどを通した道具の使い方の学習、円滑な会話や声の大きさといったコミュニケーション能力の育成を図るための学習などです。自立活動の時間に大切にしていることは、子どもたちにとって「楽しく、意味のある活動」です。楽しいことをする授業は魅力的ですが、目的意識がなければ、ただ楽しいだけで終わってしまいます。「この活動をするとなどのような力が身に付くのか」を明確にし、子どもたちと目的を共有して活動することで、学びも大きく変わります。しかし、意味をもたせるための活動を意識するあまり、楽しい活動でなくなってしまうと受動的な学習になってしまいます。つまり、この二つのバランスを考えることが、授業を行う上で、とても重要だと考えています。

これらのことを踏まえ、これからも、子どもたちのやりたいという気持ちを大切に、充実した学校生活を送ることができるよう支援するとともに、私たち教職員も日々研鑽を積むことで、一人一人の個性が伸ばせるよう尽力していきます。



《自立活動の時間》

自立を見据えた学び

館林市立第一中学校

本校の特別支援学級は、自閉症・情緒障害特別支援学級一クラス、知的障害特別支援学級二クラスがあり、計十五名が在籍しています。

知的障害特別支援学級では、「生活単元」学習の中で地域の施設巡り散歩を行っています。仲間と一緒に長良神社や護国神社を散策しながら、楽しく地域の歴史や文化に触れることができます。

「理科」の授業では、体験活動や実験を多く取り入れています。二学期に苺の栽培を行う準備のため、五月下旬に市内の苺農園を訪問しました。園の方から苺の栽培方法を学び、苺の収穫体験を通して分かったことをワークシートにまとめました。また、学校の周りの植物を採取して、葉の葉脈標本を作り、美しい葉に仕上げ

ました。

さらに、三クラスすべての学級で、卒業後の進路や自立を見据え、ソーシャルスキルトレーニングに重点を置いた「自立活動」を行っています。

特別支援学級に在籍しているも、中学校卒業後は普通高校に進学する生徒も増えていきます。そのため、大人数の一斉指導や社会生活に対応できるようなコミュニケーションスキルの習得を目標に、様々なエクササイズを工夫して行っています。生徒たちは、礼儀正しい挨拶や返事、相手の気持ちを考えてやる言葉掛けなど、人として大切なことを学びながら成長しています。



《理科 葉脈標本の葉》

親しみのある園生活を

館林市立杉並幼稚園

本園では、教師と幼児の信頼関係を基盤に、幼児一人一人が安心して生活できるように環境を整えながら保育に取り組んでいます。「一緒に遊ぼう」「いいよ」と友だちのしている遊びに興味をもち、積極的に話しかけるなど関係性の深まりが多く見られます。

杉並幼稚園では幼児たちが親しみの気持ちをもつて園生活を送れるように二つのことに気を配っています。

一つ目は、身支度や生活の流れなどが分かるように必要に応じて絵カードや写真などを活用し、視覚的な支援をしています。より細やかな支援を必要とする幼児には、自分の好む遊びが落ち着いてできるように、コーナーを作って遊べる場を設けています。二つ目は自分から興味をも



《絵カード トイレの使い方》

ち主体的に遊ぶことができます。また、異年齢児で関わる機会を多く取り入れることで、幼児たちは優しく接してくれるお兄さんお姉さんの真似をしたり憧れの気持ちをもったりすることができま。それにより、幼児同士がコミュニケーションを図りながら一緒に遊べるようになり園生活の楽しさをより感じています。今後幼児が自分らしさを十分に発揮しながら安心して遊びや生活することができるよう環境作りや支援の工夫に努めていきたいと思っています。



チームで支える

発達支援

館林市立六郷保育園

六郷保育園は、第六小学校と杉並幼稚園に隣接した所にあり、秋には銀杏並木がキラキラと輝いています。

今年度の在籍は六十四名。外国籍の園児も多く、個別の支援が必要な園児が、各クラス三〜五名います。

本園では、発達障がいのある早期発見・早期療育に繋がるように保健センターと積極的に連携を図っています。これは発達障がいの診断名を付けるのが目的ではなく、何が苦手で、どんな支援が有効なのかを知るためです。園児の困り事を減らし、園生活を笑顔で送れるように、保護者の気持ちに寄り添いながら進めています。

午睡の時間には、午前中の主活動や生活の場面において『スムーズに行動できていた



《絵カードを使用しての言葉かけ》

か?』『どんな言葉がけなら上手く伝わったか?』など、複数の担任間で振り返りの時間をもち、個々の特性に合った支援ができるように日々努めています。また、『A君は着替えの時に絵カードを見せると行動に移せた』といった成功例を他のクラス担任に伝え、B君にも応用することができるようではないかと情報を共有しています。時には、療育機関など外部の力も借りながらチームとして取り組んでいます。

一人一人の発達に応じた支援をすることで、子どもたちの自己肯定感を育み、安心して過ごせる保育園を目指していきたいと思っています。

子どもの可能性を引き出す支援

放課後等デイサービス ライム

令和四年七月一日、放課後等デイサービス ライムが開所いたしました。特別支援学校や支援学級、普通学級に通う小学一年生から六年生までのお子さんが利用しており、それぞれの個性や発達段階に応じた支援を提供しています。ライムでは、行動トレーニングを意識した「筋肉チャレンジ」をはじめ、対人関係やマナー、ルールを楽しむ学びのための「コグトレ（認知機能トレーニング）」や「グループワーク」を取り入れていきます。子どもたちは他者との関わり方を学び、社会性を身に付けていきます。

また、毎月の製作や工作活動、アートセラピー等を通じて、自己表現の力も育てています。特にアートセラピーで

は、気持ちの表現方法を学びながら、人からの評価にとらわれず自由に描くことを大切にしており、創造する楽しさや達成感を味わうことができます。

お子さん一人一人の特性に適した支援として、文字や写真等を使った視覚的な支援を取り入れ、安心して活動に参加できるよう配慮しています。また、子ども自身が選んだことに対して責任を持つて取り組む姿勢を育てることも重視しています。職員一同が子どもたちの可能性を信じ、力を引き出せるように日々丁寧な支援に努めています。個性を尊重しながらも小集団の中で仲間との関わりを深めていくことで、子どもたちが社会の中で自信を持つて生きていく力を身に付けていけるよう



《みんなで散歩》

うサポートしています。ご家庭や通っている小学校との連携も大切に、共に成長を見守るパートナーとして信頼関係を築きながら安心して通えるライムを目指しています。

みんな芸術家

社会福祉法人
愛光園 ラクーン

私たち「ラクーン」は、平成二十七年十二月に開所した生活介護サービスの障がい者支援施設です。今年の十二月で節目の十年を迎えます。開所当初は僅か十名程度の利用者様からスタートしました。今では三十五名の方がラクーンを利用されるまでになりました。日中は各々好きな活動をされたり、皆でゲーム等を楽しまれたり、また、内職作業を頑張っておられる利用者様もいます。

そんな中で愛光園として令和五年度よりアート・芸術活動に力を入れて参りました。



《芸術活動の時間》

毎年様々なテーマで作品展を開催し、各事業所の日々のレクリエーションの時間を利用して大勢の利用者様に参加していただき、皆で力を合わせて作品を創ってきました。出展された作品の中から法人内で審査を行い、優れた作品には賞を贈り表彰します。賞に輝いた作品を創り上げた利用者様は、「また次の作品展でも賞を取りたい」惜しくも賞を逃した利用者様は「今度こそは表彰される作品を創るんだ」と、また頑張つて作品を仕上げておられます。我々職員もそんな利用者様のお手伝いをしながら、自分でも楽しんでおります。今後の目標は法人外の作品展にも出品したい

ということですが、
 作品作りを通して、利用者
 様同士の良きコミュニケーションに繋がるよう、しっかりと
 と支援していききたいと思っ
 ております。

就学前の お子さんの成長を お手伝いします

館林市立第二小学校
 幼児情緒教室

○幼児情緒教室は、どこにあ
 りますか？

第二小学校にあります。

○どんなことをしている教室
 ですか？

発達について心配があるお
 子さんや保護者の方を支援す
 る教室です。一人一人のお子
 さんの成長に合わせた個別指
 導をしています。基本は週一
 回、一回の指導は約一時間で
 す。一人一人のお子さんの得
 手不得手を把握し、得意なこ
 とを生かしながら学習します。
 落ち着いて話を聞いたり、思
 いを伝えたり、遊びの中から

ルールを身に付けたりするこ
 とができるよう、支援してい
 きます。

また、保護者の方からの相
 談を、年間を通して受け付け
 ています。

○どのようなお子さんが来
 ていますか？

三歳から就学前までのお子
 さんが、親子で通っています。
 話を聞くのが苦手な子、落
 ち着いて座っているのが苦手
 な子、友達との関わりが苦手
 な子、自分の思いを伝えるの
 が苦手な子、こだわりがある
 子など・・・いろいろなお子
 さんが来ています。



《子ども達が大好きなプレイルーム》

お子さんのことで心配や不
 安なことがありますたら、お
 気軽にご相談ください。

自然とのふれあい

ひまわりの里

ひまわりの里は平成二十八
 年八月に就労継続B型事業所
 を足次町に開所しました。今
 年で九年目を迎えました。現
 在、全員で二十三名の利用者
 さんが通所しています。主に
 農業を中心に軽作業も取り入
 れて、利用者さんの希望や能
 力に合わせた仕事をしていま
 す。

ここでは、さまざまな障が
 いを持つ方が朝九時の始業に
 あわせて集まっています。農
 業は野菜の播種、栽培、出荷と
 という一年間のサイクルで働い
 ています。軽作業はボールペ
 ンの組み立て作業をやってい
 ます。この作業の目的は、利用
 者さんが社会の一員として貢
 献し、働くことの重要性を理
 解してもらうことです。その
 ためには利用者さん全員が仲
 良く、楽しく仕事ができるこ
 とが一番だと考えています。

職員は、利用者さんの障がい
 の内容をよく理解してそれに
 合った支援をし、成長を促し
 ていくことに取り組んでいます。

これからも野菜作りを通じ
 て、それぞれの能力の特性を
 活かしながら、無理なく働く
 ことができる「障がいがある
 方主役の施設」を目指して共
 に歩んでいきたいと思いま
 す。
 令和七年度中に小さな直売
 所がオープンします。利用者
 さんたちが作った野菜が並び
 ますので近くにお越しの際は
 ぜひお立ち寄りください。



《栽培したナスの出荷作業》



館林市内のLD・ADHD 等通級指導教室に ついて

館林市では、

- ・第三小学校
- ・第八小学校
- ・第十小学校
- ・美園小学校
- ・多々良中学校

に設置されています。

他校からの通級もでき
 ます。お子様の学校の担任
 やコーディネーター、また
 は学校教育課

(七二一四一一一

内線二二八)

までご相談ください。

編集後記

「ちから」第九十五号は
 いかがでしたか。

今後とも、特別支援教育
 にご理解と協力をお願い
 いたします。

(館林市特別支援教育
 推進委員会啓発部)